

アナフィラキシー症状に対する危機管理マニュアル

アナフィラキシーは非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあります。教職員の誰が発見者になった場合でも適切な対応がとれるように全員が情報を共有し、常に準備をしておく必要があります。

1 緊急時の対応

☆異変に気づく

- ◆大声で応援を呼ぶ。患者から離れない。
- ◆安静にし、動かさない。目を離さない。

発見者（及び応援にかけつけた養護教諭などの教職員）

周囲の安全の確認

反応があるか？

あり

なし

・エピペン®の注射

・119番通報

一次救命処置

- ・気道確保
- 自発呼吸がない場合
- ・胸骨圧迫
- ・人工呼吸
- ・AED実施

①状態の把握

- ・症状・経過の把握
- ・学校生活管理指導表の確認
- ・食物アレルギー症状チェックシートによる確認

症状は急激に変化することがあり、5分ごとに注意深く観察する。最低1時間は目を離さない。

②応急処置

- ・学校生活管理指導表の指示に基づいて行う。
- ・食物アレルギー症状チェックシートに基づいて行う。
- エピペン®の注射 など

校長・教頭等

- 1 対応者への指示
- 2 周囲の教職員への指示
- 3 エピペン®の注射または介助
- 4 必要に応じて主治医等への相談指示 など

指示

周囲の教職員

（応援にかけつけた教職員）

- 1 エピペン®や内服薬の準備
- 2 学校生活管理指導表の確認
- 3 食物アレルギー症状チェックシートの記録
- 4 エピペン®の注射または介助
- 5 救急車の要請
- 6 保護者への連絡
- 7 周囲の児童生徒の管理
- 8 救急隊の誘導 など

連絡

応援

救急車要請の目安

- ・アナフィラキシーの兆候が見られる場合
- ・学校生活管理指導表で指示がある場合
- ・エピペン®を使用した場合
- ・主治医、学校医等または保護者から要請がある場合 など

救急隊へ

※ 1 食物アレルギー症状チェックシート

□観察開始(時 分) □薬の服用(時 分) □エピペンの注射(時 分)

	グレード3	グレード2	グレード1
全身	☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 脈が触れにくいまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	◇症状は急激に変化することがあるため、 5分ごとに注意深く症状を観察する。	
呼吸器	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ ゼーゼーする呼吸	☐ 数回の軽い咳	
消化器	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 明らかな腹痛 ☐ 複数回の嘔吐 ☐ 複数回の下痢	☐ 我慢できる弱い腹痛 ☐ 吐き気
目 口 鼻 顔	グレード3の症状 が1つでもあては まる場合、エピペン ®を注射する。	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ	☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 唇の腫れ ☐ 口のかゆみ、違和感 ☐ 喉のかゆみ、違和感 ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚		☐ 強いかゆみ ☐ 全身性の赤み ☐ 全身のじんましん	☐ 軽度のかゆみ ☐ 部分的な赤み ☐ 数個のじんましん

上の症状が1つでもあれば
以下の対応を行う。

上の症状が1つでもあれば
以下の対応を行う。

上の症状が1つでもあれば
以下の対応を行う。

対 応	☐ エピペン®の注射 (迷ったらエピペン®の注射) ☐ 救急車の要請 ☐ 内服薬の使用 (反応がなく、呼吸がなければ) ☐ 胸骨圧迫 ☐ 人工呼吸 ☐ AED実施	☐ 内服薬の使用 ☐ エピペン®の準備 ☐ 医療機関の受診 (迷ったら救急車要請) ☐ グレード3の症状の有無を注 意深く観察し、1つでもあては まる場合はエピペン®を使用 する。	☐ 安静にして経過観察 ☐ 内服薬の使用 ☐ 医療機関の受診
--------	--	---	---